

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-9

施策

中心市街地におけるにぎわいの再生と都市機能の向上を図る

担当部局

建設局, 教育委員会



【躍動】めざまちの姿 市中心部のにぎわいの再生と利便性の向上が図られて、まちづくりが行われている

市の基本方針

- 倉敷駅南北を一体とした回遊性を生む新たな商業・観光拠点とするため、南北エリア間相互の交流を主軸に、駅北側の複合型商業施設のエリア、倉敷美観地区、倉敷中央病院を中心とするエリア、駅前商店街のエリアの各エリア間の交流を促進します。
- 市民のまちづくりへの関心と要望の的確な把握に努め、歩いて楽しく、健康を意識できる、にぎわいの創出と地域の特性に合った持続可能な市街地整備を進めます。
- 鉄道の高架化を見通した上で、土地区画整理事業などによる市街地整備を推進し、美しく風格のある良質なまちづくりを進めます。

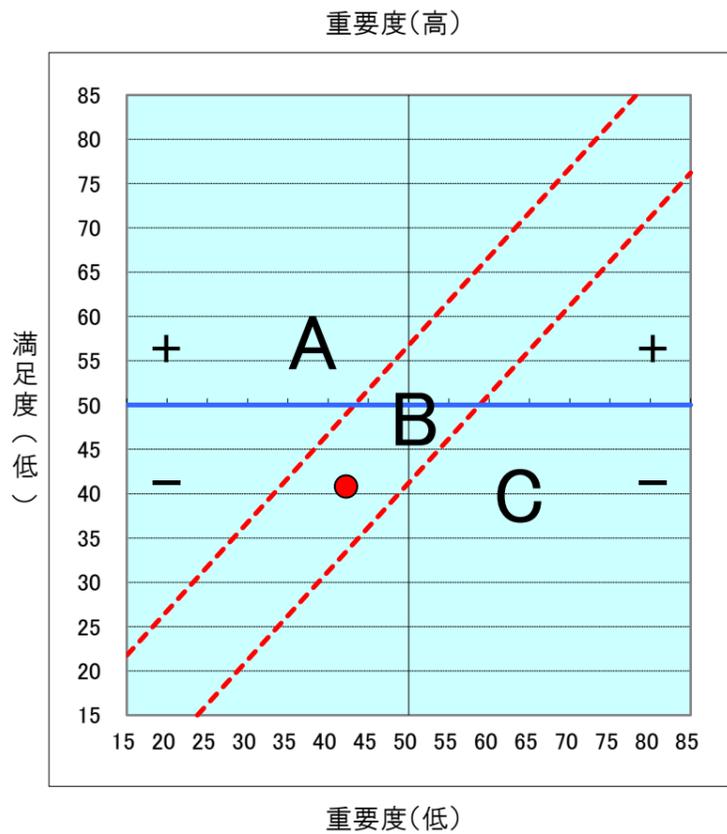
数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																			
<p>市中心部に魅力を感じている人の割合</p> <table border="1"> <caption>市中心部に魅力を感じている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>10.2</td><td>10.2</td></tr> <tr><td>H23</td><td>22.5</td><td>15.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>20.3</td><td>18.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>18.4</td><td>20.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>17.5</td><td>22.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>21.9</td><td>25.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>21.0</td><td>28.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>23.1</td><td>30.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>16.8</td><td>32.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>34.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>38.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	10.2	10.2	H23	22.5	15.0	H24	20.3	18.0	H25	18.4	20.0	H26	17.5	22.0	H27	21.9	25.0	H28	21.0	28.0	H29	23.1	30.0	H30	16.8	32.0	R1		34.0	R2		38.0	<p>市民アンケート調査で「市中心部(倉敷駅周辺)に魅力を感じていますか。」という設問に対して、『感じている』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)は「市中心部(倉敷駅周辺)に魅力があると思いますか。」という設問に対して『魅力がある』と答えた人の割合。</p> <p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、6.6ポイント上がり、前年度に比べ、6.3ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P55】</p> <p>(Ⅱ) 年代別では、16～19歳の年代で50%以上と値が高く、50歳代以上の年代で15%以下と値が低くなっている。地域別では、児島、庄、船穂、真備地域で20%以上と値が高く、茶屋町地域では10%以下の値を示している。</p> <p>(Ⅲ) 調査期間内で最低値となった。20歳代から40歳代での低下が著しく、賑わい創出に比例している交通混雑に起因していると想定される意見が多い。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																			
H21	10.2	10.2																																			
H23	22.5	15.0																																			
H24	20.3	18.0																																			
H25	18.4	20.0																																			
H26	17.5	22.0																																			
H27	21.9	25.0																																			
H28	21.0	28.0																																			
H29	23.1	30.0																																			
H30	16.8	32.0																																			
R1		34.0																																			
R2		38.0																																			
<p>中心市街地の居住人口</p> <table border="1"> <caption>中心市街地の居住人口</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (人)</th> <th>目標値 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>8,069</td><td>8,069</td></tr> <tr><td>H23</td><td>8,029</td><td>8,100</td></tr> <tr><td>H24</td><td>8,007</td><td>8,150</td></tr> <tr><td>H25</td><td>7,964</td><td>8,200</td></tr> <tr><td>H26</td><td>7,967</td><td>8,250</td></tr> <tr><td>H27</td><td>7,987</td><td>8,300</td></tr> <tr><td>H28</td><td>7,839</td><td>8,350</td></tr> <tr><td>H29</td><td>7,709</td><td>8,400</td></tr> <tr><td>H30</td><td>7,646</td><td>8,450</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>8,800</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (人)	目標値 (人)	H21	8,069	8,069	H23	8,029	8,100	H24	8,007	8,150	H25	7,964	8,200	H26	7,967	8,250	H27	7,987	8,300	H28	7,839	8,350	H29	7,709	8,400	H30	7,646	8,450	R1		8,800	<p><全域>本町, 阿知1丁目, 阿知2丁目, 阿知3丁目, 鶴形1丁目, 鶴形2丁目, 川西町, 稻荷町, 石見町 <一部>美和1丁目, 美和2丁目, 中央1丁目, 中央2丁目, 老松町1丁目, 老松町3丁目, 東町, 日吉町, 寿町, 昭和1丁目, 昭和2丁目, 幸町</p> <p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、423人減り、前年度に比べ、63人減った。</p> <p>(Ⅱ) 減少傾向が続いている。町丁別では石見町, 日吉町からの市内転出が、大きなウエイトを占めている。</p> <p>(Ⅲ) 倉敷駅周辺第二土地区画整理事業, 阿知3丁目東地区市街地再開発事業等における一時的な移転の影響が顕著である。今後、同区画整理事業及び同市街地再開発事業等の進展で回復すると考えられる。</p>			
年度	実績値 (人)	目標値 (人)																																			
H21	8,069	8,069																																			
H23	8,029	8,100																																			
H24	8,007	8,150																																			
H25	7,964	8,200																																			
H26	7,967	8,250																																			
H27	7,987	8,300																																			
H28	7,839	8,350																																			
H29	7,709	8,400																																			
H30	7,646	8,450																																			
R1		8,800																																			

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
重 公 創	中心市街地活性化事業	(Ⅰ) 平成27年3月に認定を受けた倉敷市中心市街地活性化基本計画新計画に基づき、中心市街地の賑わいを創出し、回遊性の向上を図る活性化事業を官民が連携して推進するとともに、居住促進への取組をはじめ、歩いて楽しい、魅力ある暮らしやすい中心市街地を形成することを目的として実施した。 (Ⅱ) 更なる賑わいと活力を創出し、持続的なものとするため、中心市街地内の魅力集客拠点に付加する新たな価値の発掘や、官民連携で行っている「中心市街地みらいの灯りプロジェクト」等、様々なイベントを実施することにより、新たな来街者を誘引し、恒常的な広域集客を実現している。 また、町家・古民家リノベーションによる新たな魅力集客拠点の創出や、市が主体となり、地域と連携して進めている電線類地中化及び路面美装化を推進するとともに、中心市街地内における違法駐車、迷惑駐輪を抑制する荷捌き場・自動二輪車駐車場、事業者向け自転車駐車場等の試行を開始し、中心市街地の景観向上、公共空間の安全・安心・快適さの向上、高質空間化を図った。 さらに、インバウンド対応についても、「中心市街地インバウンド対応WG」による英語観光ガイド育成により、技量試験に合格した13人が倉敷美観地区でのガイドを開始し、年間約1,000人に倉敷市の歴史と文化を学べる、英語での奥深い御案内を実施するなど、ハード・ソフト両面での強化を進めた。 (Ⅲ) 西日本豪雨災害発生により調査時期が例年と異なるため単純比較はできないが、昨年度の中心市街地内の休日1日当たりの歩行者・自転車通行量が、中心市街地活性化基本計画策定以来、過去最高を記録していることから、今後もさらなるにぎわいと活力の創出と、新計画で設定した目標の実現に向けて、継続して官民一体で活性化に取り組む。 また、これまでの取り組みにより創出された、倉敷みらい公園とJR倉敷駅北大規模複合型商業施設からなる「潤いと憩いと賑わい」の都市空間、電線類地中化等で魅力を増した町並み及び景観美と相乗効果を増大させる町家・古民家をリノベーションした多数の新魅力集客拠点、並びに市民が主体となって行う各種賑わい創出イベント開催等により、人々のJR倉敷駅南北への回遊意欲を喚起していく。	60,124
重	おもてなしマイスター認定事業	(Ⅰ) 美観地区及びその周辺で勤務する方、ボランティア、居住者を対象に、おもてなしの「こころ」や「技術」の習得及び意識の定着を図り、高齢者、障がい者等の要援護者に対し、ハードにおけるバリアを、人の手による介助”心のバリアフリー”により補完することを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成22年度から市が認定講習会の受講者を「おもてなしマイスター」、店舗を「おもてなし処」として認定しており、平成30年度は認定講習会を6回開催し、新たに「おもてなしマイスター」64人を認定した。これまでに「おもてなしマイスター」692人、「おもてなし処」36施設を認定している。 (Ⅲ) 継続して実施する。	214
公 創	伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業(再掲)	(Ⅰ) 伝建地区・伝美地区及び町並み保存地区内の町並みを保存することを目的に実施した。 (Ⅱ) 伝統的建造物群保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる6件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。伝統美観保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる2件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。下津井町並み保存地区の町並みを保存するため、伝統的な様式で行われる1件の建物外観の修理、修景に対し補助金を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	39,900
創	まちづくり基金事業	(Ⅰ) 「地域の歴史と文化を継承する貴重な街並みを守るとともに、地域の魅力向上、賑わい創出等のまちづくり活動を支援する」ため、平成25年度に倉敷市まちづくり基金を創設した。 (Ⅱ) 平成30年度は、事業審査会を3回開催し、倉敷、水島、児島地区合わせて16件を採択した。 また、基金活用実績として、町並み保全・創出支援では、倉敷美観地区及び周辺エリアで9件の町家・古民家再生整備支援を行い、修景修理に加え、空き店舗活用による賑わいと活力の創出を実現した。 (Ⅲ) 年3回、基金活用事業の審査会を開催し、市内全域でのまちづくり活動の支援(年10事業以上の支援を目標とする)を行う。また、制度の周知を図るため、市民に対する出前講座を積極的に開催していく。	63,257
公 都 創	倉敷駅付近連続立体交差事業	(Ⅰ) 倉敷駅周辺の都市交通の円滑化や安全性の向上を図るとともに、南北市街地の一体化を促進し、都市機能の集積強化を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 連続立体交差事業の着手に向けて、県等と協力し協議、検討、調査を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,724
重 公 都 創	倉敷駅周辺第二土地区画整理事業	(Ⅰ) 都市基盤の整備にあわせ、都市的土地利用への転換を行い、倉敷市の都市拠点としてふさわしい機能強化を図り、倉敷駅南北の市街地の一体的な発展に寄与することを目的として実施した。 (Ⅱ) 今後の予定等を明記した移転計画を策定し権利者へ通知した。移転計画に基づき、補償額算定のための建物調査及び建物の除却等に係る補償を行い、道路改良工事及び宅地造成工事を施工した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	855,103
重 公 都 創	阿知3丁目東地区市街地再開発事業	(Ⅰ) 倉敷市中心市街地活性化基本計画の一環として、第一種市街地再開発事業により都市機能の更新及び土地の合理的かつ健全な高度利用をし、倉敷市の玄関口にふさわしいまちづくりを目的に実施した。 (Ⅱ) 再開発組合において、平成31年度の工事着手に向けて、実施設計、権利変換計画の作成等を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	223,235

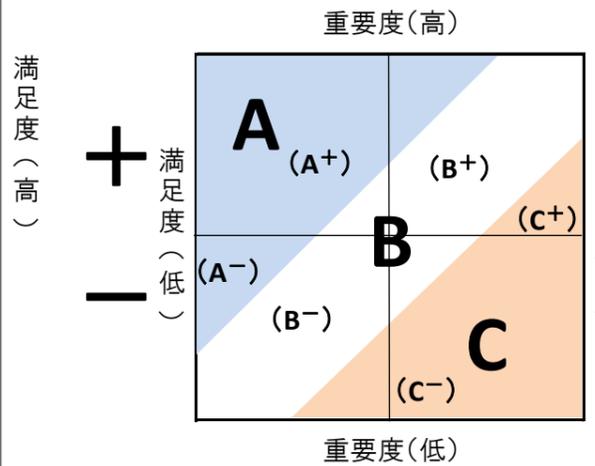
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁻	40.79	42.28

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 倉敷駅周辺のにぎわいを創出するために、中心市街地としてふさわしいまちづくりを行う必要がある。
- 倉敷市中心市街地活性化基本計画新計画事業を円滑に推進するため、最適な事業スキームの構築を官民が連携して行っていく必要がある。
- 平成29年に公表した「倉敷駅周辺総合整備計画」においても「鉄道南北をつなぐまちづくり」が重要であるとし、駅周辺の都市基盤形成の骨格となる道路、駅前広場、市街地整備等の事業とともに、南北市街地の一体化を効果的に実現するために必要な事業として、連続立体交差事業を位置づけしている。
- 倉敷駅北側の複合商業施設の開業などにより、倉敷駅南側の美観地区との間を行き来する歩行者や自転車交通の大幅な増加が確認されており、連続立体交差事業など、南北エリア相互間の交流を促進する事業が、これまで以上に必要となってきた。
- 倉敷市の玄関にふさわしい都市景観の魅力と風格、都市を感じさせる洗練された空間が不足し、倉敷地域内や市内他地域・地区から駅周辺へのアクセス性が低いことから、「まちの顔」にふさわしい魅力的な空間の形成及び総合的な道路・交通体系の強化などが必要である。
- 倉敷駅南側における再開発事業を推進する必要がある。
- 倉敷市中心市街地活性化事業計画エリアにおいて、「休日等の局地的な駐車場容量の不足」や「路上駐停車や駐車場の入庫待ちに伴う主要沿線の交通利便性低下」等の解消が必要である。

今後の取組み方針

- 総合整備計画にのっとり、中心市街地のにぎわい創出と南北一体的な発展に向けて整備を行っていく。
- 倉敷市中心市街地活性化基本計画新計画事業の課題解決及び解決策等の事業化を機動的に行うため、倉敷市中心市街地活性化協議会にワーキンググループを新設して事業を推進する。また、新たに認定を受けた日本遺産の活用についても検討する。
- 権利者等に対して引き続き交渉を重ね、建物等の移転と道路築造工事等を行っていく。
- 倉敷駅付近連続立体交差事業は、事業主体である岡山県及び鉄道事業者等と連携して、岡山県事業評価監視委員会での再評価に向けた作業を進めるなど、事業推進に向けて取り組んでいく。
- 組合・事業者・行政が一体となり、倉敷駅南側エリアにおける再開発の円滑な事業推進に努める。
- 適切な駐車場の設置や管理運営について検討する。